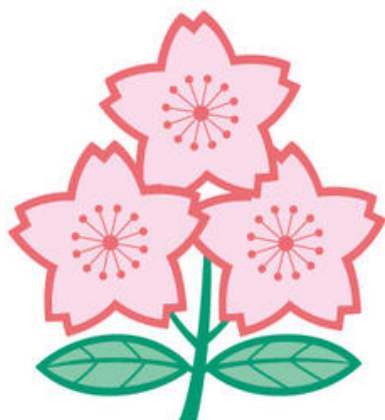


U12 競技規則
「危険なプレーについて」解説書



**JAPAN
RUGBY**

普及育成委員会

(公財)日本ラグビーフットボール協会

2023年4月27日 作成

目次

はじめに

1. 競技規則第9条不正なプレー(危険なプレー・不行跡)原文・・・2
2. 詳細な解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 - 1) ハンドオフについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 - 2) スクイズボールについて・・・・・・・・・6
 - 3) タックルの高さについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
 - 4) 逆ヘッドとなるタックル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
 - 5) ジャッカルについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

はじめに

(公財)日本ラグビーフットボール協会普及育成委員会は、ワールドラグビーの動向を踏まえながら、より安全でより楽しいゲームをサポートするべく、競技規則の変更を行っております。本資料は、ミニラグビー(U12)の競技規則第9条の不正なプレー(危険なプレー・不行跡)の記載方法を変更した箇所について、詳しく解説する資料となります。一つの時代も競技規則の変更等は混乱を伴いますが、安全に配慮した変更は、保護者を安心させ、また、より多くの新しい参加者を迎えることにつながります。今後もより安全で楽しいラグビーを提供できるよう検討を続けてまいりますので、どうぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

変更の大きなポイントは2つあります。

■危険なプレーについては全てを記載

これまでの危険なプレーの記載は、本則や上位の年代の競技規則に書かれている危険なプレーが省かれていたこともあり、危険なプレーを確認するには全ての年代の競技規則を読まないとならない状況となっていた。そこで、今回、危険なプレーに関しては、基本的に全てを網羅する記載方法へと変更した。

■曖昧な表現の明確化

これまで記載内容の問題により、解釈に齟齬が生まれていたジャッカルやタックルの高さについて明確化した。

1. 競技規則第9条不正なプレー(危険なプレー・不行跡)原文

プレーヤーは、無謀な、または、他者に対して危険な行為はいかなるものもしてはならない。以下は危険な行為となる。

- a. ボールキャリアの際に腕を横に振り、相手を払い除ける行為。
- b. ボールキャリアの際に頸部、顔面、頭部へのハンドオフをする行為。(手を拳骨にすること、また頸部、顔面、頭部へのハンドオフや肩より下であっても相手を怪我させる恐れがあるほど過度に力がかかったハンドオフも危険な行為となる。/イラスト1およびイラスト2参照)



イラスト1 頸部、顔面、頭部へのハンドオフ

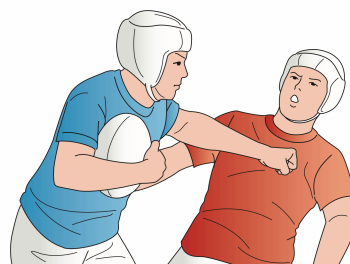


イラスト2 拳骨でのハンドオフ

- c. タックルされたプレーヤーか、あるいは地面に倒れたプレーヤーが、身体と地面の間にボールを確保し、足の間からボールを後方に押し出す行為(イラスト3参照)

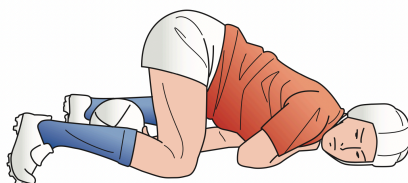


イラスト3 スクイズボール

- d. 胸部より上へのタックル(イラスト4参照)



イラスト4 タックルの高さ

- e. ノーボールタックル
- f. ノーバインドタックル
- g. 逆ヘッドとなるタックル(イラスト6 参照)



イラスト6 タックラーの頭が相手の進行方向にあること

- h. ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりする行為。
- i. 襟を掴む行為。
- j. 後ろ等から肩口を掴む行為。
- k. 引き倒す行為。
- l. 振り回す行為。
- m. 相手を突き倒す行為。
- n. 頭部を相手に打ち付けるような行為。
- o. 故意に肘または膝を前に出して相手にあたる行為。
- p. モール・ラックを崩す行為。
- q. 地上にあるオープンボールを相手陣に強く蹴り込む行為。
- r. 相手を怪我させるような行為。

- s. いずれのプレーヤーもモールへ参加する場合を含めて、全てのプレーや局面において頭を肩や腰より低く(ローヘッド)プレーをする行為。

※具体的にはボールの争奪、及びタックル時、ボールを確保する行為、ラックの形成前からラック、モール形成時を含めて全てのプレーにおいて、故意、あるいは継続的に顔を下に向け、肩や腰より頭を下げたままプレーすることをいう。ボールの位置から離れたスィーブや頭の下がる突っ込み、ブリジング、或いはボールに対して蓋をするような行為、下記のようなジャッカル姿勢(イラスト7およびイラスト8)も禁止となる。

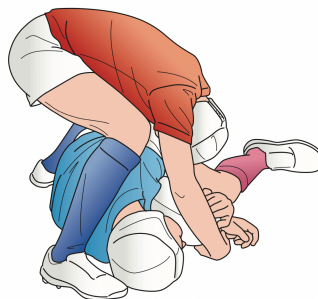


イラスト7 足を揃えて頭を下げたジャッカル姿勢

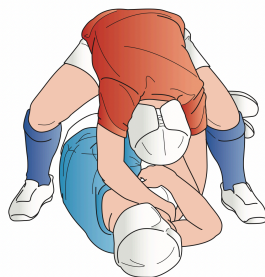


イラスト8 相手を跨いだ状態は問題ないが頭を下げ続けることは禁止

これらの行為は、実際に起きた場合だけではなく、その危険性が予見されればファウルプレーである。レフリーはアドバンテージを適用することなく速やかに試合を停止する。判定に対する異議、相手の反則のアピール、相手への礼を失した言動等、スポーツマンシップを損なう行為も厳禁である。

罰:ペナルティキック

31. コーチについて【Original】

a. 試合中、コーチは定められた区域内に位置し、子どもの自主性、判断力養成の観点から、人格を尊重した言葉で指導を行うこと。またレフリーの判定に異議を唱えたりしてはならない。上記のような言動が見られた場合、レフリーは、試合を停止しコーチに注意をする。それでも改善が見られない場合、そのコーチを退場させることができる。この場合の退場とは速やかに競技場を離れることである。

b. コーチの不行跡により試合が停止した場合、試合再開は、スクラムで行い、プレーの停止が命じられたときにボールを保持していた側がボールを投入する。レフリーはコーチに注意以上の処分を与えた場合、試合終了後速やかに主催者にその旨を報告する。

【確認事項】

脳振盪の疑いがあり、医師、指導者、レフリーの判断で競技を離れたプレーヤーは、当日の試合出場を認めない。また、その後のプレー復帰は日本ラグビーフットボール協会の定める脳振盪ガイドラインの段階的復帰プロトコル（GRTP）に従うこと。

2. 詳細な解説

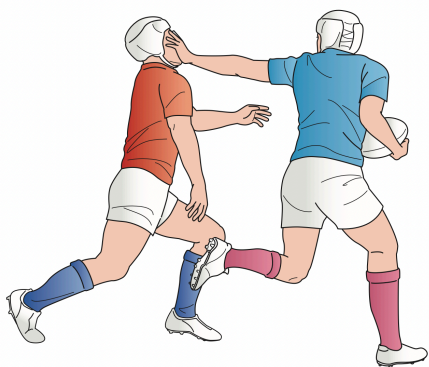
下記の主要な5つのプレーについて解説する。

- 1) ハンドオフについて
- 2) スクイズボールについて
- 3) タックルの高さについて
- 4) 逆ヘッドとなるタックル
- 5) ジャッカルについて

1) ハンドオフについて

第9条の表記

h. 頸部、顔面、頭部へのハンドオフをする行為。(手を拳骨にすること、相手を怪我させる恐れがあるほど過度に力を加え過ぎること。)



顔面や頸部は反則



拳骨も反則

解説

これまでハンドオフに言及した競技規則の表記がなく、そのため、ハンドオフに関連した危険なプレーが散見された。よって、競技規則において明確化した。頸部、顔面、頭部へのハンドオフ以外で、手を開いた状態であっても、過度に相手の胸を強く突くようなハンドオフなどもレフリーの判断で反則となる。コーチは、自チームのプレーヤーだけでなく、相手チームのプレーヤーの安全を考え、スキル指導を行うことを忘れてはならない。

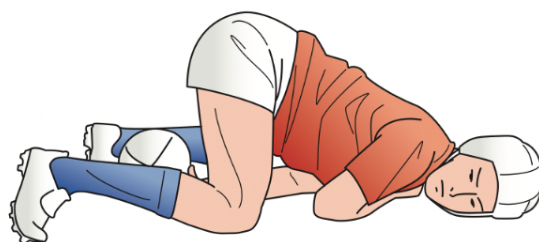
2) スクイズボールについて

第9条の表記

c. タックルされたプレーヤーか、あるいは地面に倒れたプレーヤーが、身体と地面の間にボールを確保し、足の間からボールを後方に押し出す行為。

解説

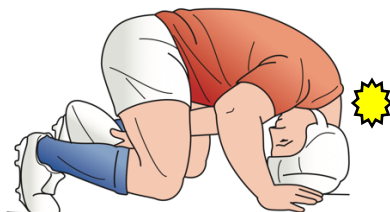
スクイズボールの姿勢は頸髄損傷のリスクがあることから高校生以下は禁止とされている。



禁止となるスクイズボールの姿勢

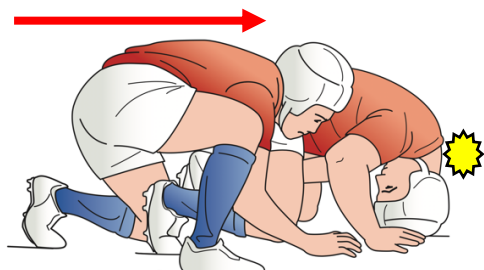
【注意事項】

スクイズボールの姿勢の中でも頭を支点とした姿勢は頸髄損傷のリスクが非常に高いので注意が必要。



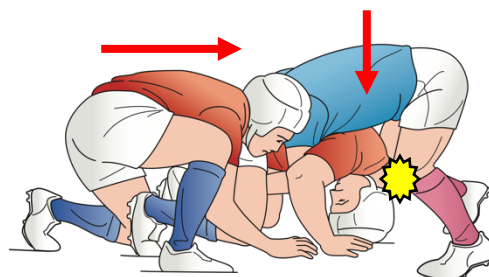
頭を支点とした危険な姿勢

危険が潜むプレー



後方から仲間に押され首が過度に屈曲する

危険が潜むプレー

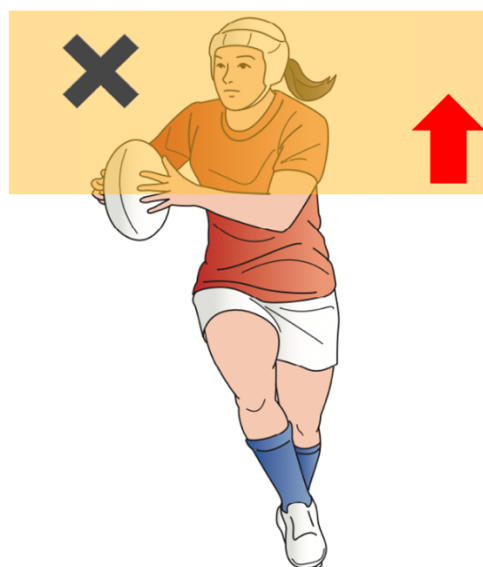


相手に上から乗られ首が過度に屈曲する

3) タックルの高さについて

第9条の表記 「d. 胸部より上へのタックル」

変更前「胸部よりも上への働きかけ」が禁止 → 変更後「胸部より上へのタックル」が禁止



解説

これまで「胸部よりも上への働きかけ」が禁止とされていた。働きかけという表現については解釈によって曖昧になるため、今後は「胸部より上へのタックル」が禁止となるという表現に変更した。

2023年3月に、ワールドラグビーでは脳振盪の軽減策として、タックルの高さを胸骨より下にすることを推奨する方針が示され、5月には正式に承認される予定。日本ラグビーフットボール協会では、現在、この推奨案を踏まえて、タックルの高さについて、協議、検証を行っており、今後、更に規則や表現が変更となる可能性もある。

4) 逆ヘッドとなるタックルについて

第9条の表記 「g. 逆ヘッドとなるタックル」

逆ヘッドタックル



タックラーの頭が相手の進行方向にあること

解説

逆ヘッドタックルはアタッカーの膝が頭部に当たることで、脳振盪、頭蓋骨折、脳内出血、頸髄損傷等のリスクがある。チームではディフェンス戦術の指導が優先される傾向にあるが、個人の安全な姿勢でのタックルの指導を決して忘れてはならない。

正しい頭の位置



タックラーの頭が相手の臀部側(尻)

5) ジャッカルについて

第9条の表記

s. いずれのプレーヤーもモールへ参加する場合を含めて、全てのプレーや局面において頭を肩や腰より低く(ローヘッド)プレーをする行為。

※具体的にはボールの争奪、及びタックル時、ボールを確保する行為、ラックの形成前からラック、モール形成時を含めて全てのプレーにおいて、故意、あるいは継続的に顔を下に向け、肩や腰より頭を下げたままプレーすることをいう。ボールの位置から離れたスイーブや頭の下がる突っ込み、ブリジシング、或いはボールに対して蓋をするような行為、下記のようなジャッカルの姿勢(イラスト7およびイラスト8)も禁止となる。

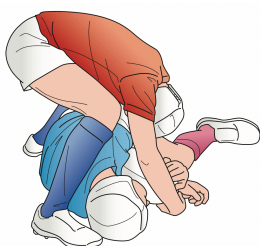


イラスト7 足を揃えて頭を下げたジャッカルの姿勢

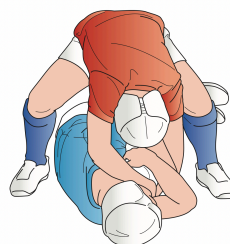


イラスト8 相手を跨いだ状態は問題ないが頭を下げ続けることは禁止

解説

これまでイラスト7のような姿勢でのジャッカルについて解釈が曖昧であったが、今回の変更により、一瞬でもこの姿勢を取ることは禁止となった。今後はボールを跨いだ姿勢でジャッカルすることが多くなるが、その際もイラスト8のように頭を下げ続けることは禁止となる。よって、ジャッカラーは、これまで以上にボールを素早くリフトする(持ち上げる)ことが求められる。

補足説明 イラスト7のジャッカルが禁止となった理由

足を揃えたジャッカル(イラスト7)は、下記のイラスト9のように相手から首にコンタクトを受ける危険性やイラスト10のように後方からの味方のヒットにより頭頂部から地面に落下するケースなどのリスクがある為、禁止となった。コーチは禁止となった理由を理解し、ラグビーに潜む危険を常に意識して指導にあたること。

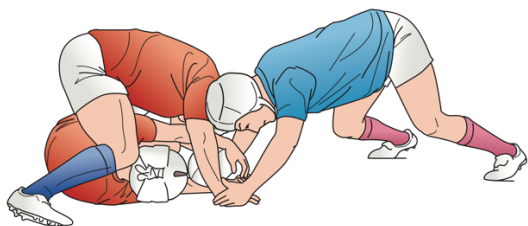


イラスト9 頸部へのコンタクト



イラスト10 後方からの味方のヒット

以上